

# あ・うん

金剛禪総本山少林寺広報誌

vol.  
**56**

2018 睦月・如月



## 謹賀新年

必ずしも思い通りにならない世の中をどのように歩むか。  
日々の修行によって信じられる自分を創り、仲間と共に勇気を育み、  
力強く優しく、一歩前に一歩前へと。  
皆様方が幸多き一年でありますように祈念いたします。

金剛禪総本山少林寺代表 大澤 隆

特集

新春座談会

ひとりひとりが輝ける場に  
——これからの道院像

## 特集①

### 新春座談会

# ひとりひとりが輝ける場に ——これからの道院像

少林寺拳法が創始され71年目に入った。社会を見ると超少子高齢化問題から派生する様々な影響は、人々の生活に大きな不安となりつつある。人づくりによる国(社会)づくりを目的とする金剛禅教団として出来ることは何か。またそのために私たちはどうあるべきか。各地より4人の教区長を迎え、未来志向で新しい教団の姿を模索しあった。

2017年10月28日  
担当/永安正樹

## 新春のごあいさつ



宗由貴少林寺拳法二世師家

新年明けましておめでとうございます。

2017年は少林寺拳法創始70周年一色でした。秋に本山で開催された「ブルースカイキャンパスin多度津」は、全国からの多くのご支援のもと、楽しいイベントとなりました。心から感謝申し上げます。

さて、記念フォーラムのテーマにあった「2025年問題」は、刻々と私たちに迫って来ております。2020年の東京オリンピックを過ぎると、日本社会は激変することが予測されています。「超少子高齢化」の六文字ではイメージしがたい、困難な社会状況がそこにあります。ひとりの高齢者を大勢で持ち上げる「胴上げ型」から、ひとりを3人で担ぐ「騎馬戦型」へ。そして、2020年には、ひとりを1人で担ぐ「肩車型」の社会となるのです。ましてや、晩婚化により40代後半から50代に子育てをしているとなれば、おんぶに抱っここのダブルケア時代となります。

そんな時代に向かう今、私たちに出来ることがあります。

それは、若い世代が心身ともに健康的な生活を送るために、自信と勇気と慈悲心、そして行動力を仲間と共に養う道院の環境づくりです。そして、次世代がそこに参加するために、高齢者の介護年齢を引き上げる効果のある「健康プログラム」を普及していくことです。それらが、孤独からの解放となり、私たちの目指す「コミュニティとしての道院」を確立していくことにつながります。

「生きる力をサポートする金剛禅」

それぞれの地域になくてはならない存在として、道院長が頼られ、道院が地域の核として認識される夢を抱き、2018年を歩みたいと思います。

## 「居場所」 である道院

佐々木 エー、ここはやはり「明けましておめでとうございます」から始めた方がよろしいでしょうか？(笑)  
※本座談会は10月末に実施

一同(笑顔になり、場が一気に和む)

代表 そうですね。この模様が掲載されるのは新春号ですから、ブルースカイキャンペーンも終わり、71年目に入る頃となります。先般、教区長会議があり、金剛禅教団が今後どのような活動を目指すか、その方針が明らかにされました。2018年はいよいよ実行に移す、行動の年となります。本日はその先導を担う全国の教区長から、4人の方々にお集まりいただきました。

先生方には、道院・教区それぞれ現場の状況と課題について、忌憚



金剛禅総本山少林寺 大澤隆代表

のないご意見をお伺いするともにも、明るい未来を切り拓くために、また社会に必要とされる教団としてどうありたいか、話し合っていたらどうと思います。

馬場 お正月ですから、明るく前向きな話をしましょう。

一同 そうしましょう！

代表 早速ですが、少林寺拳法の存在意義について、師家は「私たちは生きる力をサポートします」という表現でその必要性を説かれています。社会に対して、また道院に集う人たちに對して、皆さんが普段どのような活動を展開されているのかをお聞かせください。

片岡 私は、道院というのは「人材の宝庫」だと思っております。これは本法人の誇るべき特長と考えています。スポーツ少年団や学校・職域のクラブと異なり、年代も職種もさまざまな方が集まる場ですから、いろんな特技を持っている人たちが集まります。そんな方々の能力や強みを引き出すことを心掛けて、例えば道院の修練や行事の中で、何らかの立場や役目をお願いしています。「頼むよ」とお願いすると、迷惑がるどころか顔をキラキラさせて引き受けてくれるんですよ。今の若者はとかく



片岡三郎東京都教区教区長

無気力・無関心・無責任なんて言われていますが、決してそんなことはありません。無いのは本人の気力ではなく、それを発揮できる「場」のように思います。だからこそ道院がそういう「場」となることで、集う人たちが自分の存在価値に気づき、社会に羽ばたけるお手伝いができると考えています。

馬場 私の道院のある町は都会ではないものですから、例えば近所の小学校は全校児童が50人しかおらず、しかも保護者が車で子供たちを学校まで送り迎えして通わせるというような状況で、要は面積に対して人口そのものが少ないといえます。

そんな状況で少林寺拳法を知ってもらい、拳士を増やそうというのはなかなか大変ですが、だからこそ何かやってみようと。私どもの道院では幹部たちに「拳士増強プロジェクト委員会」を結成させているのですが、

そこで色々研究させてみたところ、「拳士を増やす」のではなく、人の少ないこの町で、何かお楽しみを増やして地域の人たちに喜んでもらう、と計画したのが「道場開放」でした。

金剛禅の儀式や道院行事、また四季折々の日本の伝統行事を道院で行うのですが、プラスαの催し物、例えば演武会やせんざい会食、夜店などを実施して、保護者の方はもちろん、近所の方々をお招きしています。かれこれ4年になりますが、一人暮らしのお年寄りの方が夜店の焼き鳥を買いに来てくださったりして、認知度が上がってきたことはもちろん、地域が生きてきたことを実感しましたし、運営した幹部も人の役に立てたことにやりがいと自信を持たれた様子で、一石何鳥にもなりましたね。

代表 拳士にとっても、また地域の方々にとつても、「居場所」となれるのが専有道場を持つ金剛禅の強みなのでしょね。

## 道院長の使命、 やりがい

益永 私の場合は皆さんと違って立派な専有道場があるわけではありません。準備万端整えて道院を設立したわけではなく、地域に求められて

始めることになりました。

当時、PTAの役員(副会長)をしていまして、その中で信用され、「あなたのやっている少林寺拳法をぜひ皆にもさせてほしい」と。ちなみにその時のPTA会長がいま、私の道院で副道院長をしてくれてます。そんな順番ですから専有道場も手狭で、他に場所をお借りしているんです。そのため、いざという時、皆さんのように人をお呼びしたり集めたりするのが難しい。ではどうするか。出向くんです。子供会育成連合会や、地域の行事やパトロールなどに積極的に参加することで、地域における存在感が少しずつですが大きくなっていく気がします。結果、地域の皆さんの支援もあり、広い道場を貸していただけることにもなりました。



益永亮福岡県教区教区長

ている道院長は、どんどん「縁」が広がっていくのが傍で見ている分かります。内部強化ももちろん大事ですが、「済生利人」といいますか、法縁を自ら紡ぎ出して世間様との関係を築いていくことは、社会の福祉に貢献する金剛禅教団として、不可欠なことだと思います。

代表 10月の教区長会議において、「少林寺拳法だけじゃない道院、大人も集まる道院、日中も何かやっている道院」というこれからの道院像を表現いたしました。これはつまり、金剛禅の活動とは拳士を対象にした活動だけでなく、広く社会を対象にするものであるという、決意の表れでもあります。

片岡 拳士は指導対象ではなく、活動をともに展開する「仲間」だということですよ。私たち道院長は拳士を、つい門下生や弟子として見てしまいがちですが、横のつながりを大切にしていききたいものです。拳士・一般の方の区別なく、地域に暮らす仲間として、「人を育てる・導く」ということが、道院長の使命と責任のように思います。

佐々木 道院長のやりがいはいままさにそれですよ。最近の人たちの気質がどんどん変わっていていることを



佐々木正大阪府教区教区長

実感しています。価値観の多様性が認められるようになったのは良いことですが、社会の対応が過剰に過ぎる不安を覚えます。結果「人間力」といったものが弱くなってきたと言いますか、大人・子供を問わず、簡単に潰れてしまう人が増えているように感じており、その衰えつつある人間力を呼び覚ますのが、私たち道院長の務めであると思いますね。

代表 そのためには道院長自身が人間力を強く持つておかないといけませんね。皆さんの教区では、道院長の研鑽や教区の活性化のために、何か取り組まれていることはありませんか。

## 道院長の力が

## 教区を盛り上げる

益永 実は道院長の中にも、仕事と家庭と少林寺拳法の鼎立に、若干疲れ気味の方がおられます。「何をやっても同じだろう」というマイナ

スの空気を払しょくするために、まずは教区の役員メンバーを刷新しました。これには効果があつた様子です。また小教区の活動を推奨するために、教区から実施のための支援・助成費用を交付するなどをしています。このほか、古参の道院長は経験も見識も豊かですので、研修会や勉強会に講師として積極的に迎え入れるなどし、良いものが継承していければと考えています。お互いに刺激しあうことで、今以上に教区に活気が起こることを期待しています。

佐々木 ベテランの先生方が培われてきた見識と技術は大切にしていきたいものですね。

片岡 東京都教区も小教区での活動を推奨しています。やはり何かあれば近隣の結束がものを言いますので。また、冒頭の発言と重なりますが、教区はそれこそ人材の宝庫中の宝庫です。教区内の道院長の特技や能力、人脈などの情報を十分に把握することで、適材適所の活躍が発揮できます。道院長一人ひとりの能力を最大限に引き出すことが、教区の活性化につながると思います。

馬場 金剛禅の教えや活動が社会に広まるためには、道院長の資質がこれまで以上に問われることになりま

す。人に見られていることを自覚し、あらためて襟を正さなければならぬと考えています。とりわけ岡山県教区は開祖生誕の地ですから、道院長一人ひとりが誇りと自負を持ち、自らを律して行動することを心掛けています。課題ですが、教区内のおよそ半数の道院長が既に70歳以上であるということ。いつまでもご指導いただき、大変ありがたい状況ではあります。若い道院長の育成も急務と考えています。

佐々木 これから若い力は本当に必要です。大阪府教区ではIT推進委員会を設立し、若手道院長を委員長に起用したことで、広報面で飛躍的な効果が認められました。信頼し、役目をお願いすることで、能力以上の真価が発揮されるというのは、片岡教区長の仰る通りだと思いますね。片岡 語弊があるかもしれませんが、力が、実力が追いつかずとも「旗を持つ」ことが大事だと思います。私は、25歳で右も左もわからない時分に道院長になりましたが、開祖からお預かりしたその重い旗を、とにかく地に着けないように必死に掲げて振り続けました。すると不思議なもので、支えてくれる方が必ず現れてくるのです。愚痴を言う道院長に人



馬場辰巳岡山県教区教区長

はついていきません。また愚痴を言う道院長を見て、道院長を目指す人が出てくるはずありません。物言わずとも一所懸命頑張る姿を見せてこそ、拳士も育ち、また社会からも認められる早道なのだと思います。益永 道院長として当たり前の姿勢ですよね。当たり前のことをし続けるだけで人はついてきてくれる。開祖はそう教えてくださったはずなのに、その当たり前のことをせず、つい道院活動以外のことに精を出してしまつたとき、自分の活動に矛盾が起こり、疲れや迷いが生じるのではないのでしょうか。

## みんな育て、協力し合う

馬場 私の道院には六段の幹部が4

人いるのですが、早く巣立ってほしいんですよ。「道院長ほど楽しいお務めはないぞ」と呼び掛けています(笑)。

片岡 今回本山が発表された「集合道院制度」は画期的ですね。そういった幹部の方にうってつけではないですか。

佐々木 専有道場という最初のハードルがなくなるのはいいですね。

益永 教区全体で若手道院長を見守り、育てていくという土壌ができてすよね。

佐々木 若手以外にも、定年された方が道院長となつて、これまでは活動していなかった昼間の道場に、時間の合う方たちをお呼びする、ということもできますよ。定年されたと言つても社会経験は豊富で、知恵とパワーのある方ばかりですから、これからの金剛禅教団にとつて大変重要な存在だと私は思います。

片岡 朝の活動もいいですね。例えば季節ごとに、定期的に早朝参禅会をして、会の終わりに法話を聞き、お茶と会話を楽しむ。一般の方にも親しみやすいように副題として、「二服会」というのはどうでしょう(笑)。

馬場 できることがどんどん思い浮

かびますね。

益永 教区でカバーできることはやりますので、ぜひ本山も、道院の後方支援をよろしく願います。

代表 承知しました。共に助け合い協力しながら、金剛禅運動を広げていきたいと思います。道院長が輝いていると、門信徒、そして地域の人も輝きます、ということが良く分かります。また道院長が輝くと、道院も教区も、そして教団全体が輝きだすことでしょう。ぜひ、キラキラと眩しい1年にしていきましょう。今日はどうもありがとうございました。





## 開祖語録 ダイジェスト

1969年8月  
第一次指導者講習会



おととい、私、心臓の発作起こしたんだ。朝5時までフーフー言った。先生、大丈夫か、大丈夫か。大丈夫だよ。またあしたぐらい起きるかもしれないなあ。これは疲れたら起きる。これはしようがないけれども、でも、一生懸命生きとる。もうこれで、病氣、病氣言いながら、三年ぐらいやつぱり生きとる。

生命保険なんか入ったりやせんぞ。死んだらパーだ。でも、私はそんなことしとりやせんぞ。

きょうはきょう、あしたはあした、朗らかなもんじゃ。必要な間は生きとる。そういうことだよ。これが悦楽の人生なのだ。腹は立てる。時々なあ。くそつたれが言うて。でも、すぐ済むよ。

せん(しない)先に、「先生、来年はどうなるじゃろうか」「少林寺拳法やつとって、歳いったら、できんようになつたらどないなるんじゃ」「そういうこと、ちよいちよい言うやつがおる。滑稽なんだ。そんなこと聞いて。

会社へ勤めたつて、どこへ勤めたつて、みんな定年があるよなあ。それから先、どないするんじゃ。そんなこと言うたら、保障のあるや

## きょうを、今を

## 一生懸命生きようじゃないか

つなんて誰もありやせん。あした原爆が落ちるか、何とか化学細菌が落ちるかも分からんなあ。そんなこと考えたら、君ねえ、何もできんじゃないか。これが取り越し苦労である。こういうものから離れる。ええか。

だから、自分を信じて生きるということ、ダーマの分霊を持つて生かされてると思わんか。私はそう思うとるから気が楽なんだ。どんな問題が起きたつて、私はケロッとしてるぞ。ああ、時が解決すると思うとる。本当はじつとしとらん。動きよるんですね。でも、やつてみな分からんし、なるようにしかならん。でも、ならせるようにやる。

だから、気楽なんだよ。きのうのことはもう済んだ。きょうはきょう、今は今。ええか、もういつペン言うぞ。何年か前に明<sup>ミン</sup>天<sup>テン</sup>有<sup>ウ</sup>法<sup>フ</sup>子<sup>ズ</sup>と言うたけれども、同じなのだ。あしたは何とかなる。何とかせないかんのだ。そのためにきょうを、今を一生懸命生きようじゃないか、どうだ。これだけでも分かつたら、君たちの人生、変わるぞ。変わらせようではないか。



▶岡山県絵本プロジェクトミーティングの皆さん(文:薬師寺豊美・岡山中央道院) ※前列左が薬師寺さん

## 皆でワイワイ、岡山県絵本プロジェクトミーティング

武専コースのお昼休みを活用して、おのおのの状況を話し合う岡山県絵本プロジェクトミーティング(有志)が開始してもうすぐ一年。「緊張からか読み間違えが多かった」「感情がうまく表現できず、子供たちの反応が薄かった」「文字が多くて長かったので、子供たちが飽きてしまった」など率直に自身を振り返っての言葉。これら反省点を四苦八苦しなげら何とかが乗り越え、他の先生方や保護者の協力を得て、今では子供たちのほうから読んでほしい本を選ん

でくれるばかりか、自分たちで読み聞かせをしてみたいと、自発的に前に出てきてくれる。なんて誇らしい!

皆でこんな話ができるようになると、背筋がゾワっと、丹田がムズムズとしてくる。状況報告もさることながら、次回はこんなことしてみよう、そろそろ自分たちのエリアから出て地域・地元(学校、病院、県や市など)と連携して行動する時期が来ているんじゃないか……などと、さらなるステップアップを実現すべく盛り上がりを見せている。何もない土から絵本の種が芽を出し、道場で水や肥料を与え、芽は育ち、葉を広げ、子供たちはいろんな色の大小の花を、少しずつ、ゆっくりと咲かせているように感じるこのごろ。まだまだ、お楽しみはこれから、これから。

### 今回読んだ絵本

#### ◎ともだちや

作: 内田麟太郎  
絵: 降矢なな  
出版社: 偕成社



### 本山

#### 開催報告(派遣講師)

##### ● 本山公認教区講習会

〔11月23日〕京都府教区(大澤隆)、兵庫県教区(西尾武)

〔11月26日〕東京都教区(片岡三郎、藤井省吾)、徳島県教区(川端哲)

〔12月3日〕滋賀県教区(坂下充)

〔12月10日〕愛媛県教区(中川英昭)

##### ● 教区研修会開催報告

〔10月15日〕三重県教区

〔10月22日〕佐賀県教区

〔11月12日〕神奈川教区

〔11月19日〕千葉県教区

〔12月10日〕広島県教区

##### ● 小教区研修会

〔9月17日〕東京第一小教区

〔9月20日〕静岡西部第一小教区

〔10月4日〕東京第五小教区

〔10月7日〕東京第九小教区、東京第十一小教区

〔10月8日〕埼玉第一小教区

〔10月15日〕和歌山海南・中紀小教区、福岡北九州小教区

〔10月18日〕静岡西部第一小教区

〔10月21日〕千葉北部小教区

〔10月22日〕静岡中部小教区

〔10月23日〕長崎島原小教区

〔10月25日〕東京第四小教区

〔10月29日〕山梨小教区

〔11月1日〕山形庄内小教区

〔11月3日〕埼玉第十小教区  
〔11月5日〕岩手県南小教区、岩手盛岡小教区  
〔11月12日〕東京第一小教区  
〔11月18日〕栃木東部小教区、東京第十三小教区  
〔11月19日〕福島県中小教区  
〔11月22日〕栃木中部小教区  
〔11月23日〕神奈川県史第二小教区  
〔11月24日〕宮城塩釜小教区  
〔11月26日〕静岡西部第四小教区  
〔12月3日〕埼玉第八小教区、東京第十五小教区、兵庫東播第一小教区  
〔12月23日〕埼玉第五小教区

#### 佐賀小城道院 設立15周年

去る10月8日、佐賀小城道院の設立15周年と佐賀小城スポーツ少年団の設立25周年を祝う行事を合同で開催した。

行事は記念演武会・記念講演会・祝賀会の三部構成で、小城市まちなか交流プラザ「ゆめぶらっと小城」を会場とした。

演武会では、全員がこれまでの修練の成果を発表し、保護者もほほえましく観覧した。

今回計画した記念講演では、熊本地震を体験し、現在も復興支援活動を行っている「風の丘阿蘇大野勝彦美術館」の大野勝彦館長に、45分間の講演を行ってもらった。一般客を含む200名の参観者は、感動と勇気をもらい、今後も復興支援活動を支援していききたいと語った。



開催された。「少年部指導者講習会が実施されないのは寂しい。自分たちで少年部指導者交流会をやるう」と、少年部教育委員会の声がけで実現した。全国から集まった拳士は27名。全員が「心から楽しみたい、学びたい」という共通目的を持って参加しているだけに、この空間にはすごいエネルギーが満ち溢れていた。マイ箸作りをしながらのおしゃべりタイム、少年部向けの技術と自分に向けた技術の時間、会話が弾む懇親会、宿舎での熱弁、絵本の読み聞かせ(三浦伸也顧問の飛び入り参加)など、いずれの場面でも笑顔、また笑顔。ここでもらったエネルギーを満タンにした全員が、各地で頑張る姿が目に見え、充実した二日間であった。

た。門信徒も増えた半面、12畳の専有道場では狭くなり、修練場所を借りて転々としていました。このたび、近くに新たに50畳の専有道場を用意し、移転とともに京都修学院道院と名を改め、11月11日に落慶法要を執り行うことができました。

手作りの祝賀会では、ご来賓から多数の励ましを頂き、今後の活動に対する力をもらった。今回の事業を通じて、関係者・参加者同士の絆が一層深まった。外部からの出席者にも「自分も頑張る」という声を頂き、活力を得ていただくきっかけになったように思う。

(道院長・松田輝昭)

#### 2017年少年部指導者交流会 あふれんばかりの笑顔

「誰も中止ですかと聞いてこない。一人くらい心配して聞いてきてもいいじゃないですか。みんなすごいですね」。中山文夫委員長(少年部教育育成委員会)のひとことで始まった少年部指導者交流会は、台風21号が日本列島に近づくと10月21・22日、三重千草道院(三重県菰野町)で

#### 京都修学院道院 (富田雅志)

#### 専有道場落慶法要

京都松ヶ崎道院を新設して五年、多くの法縁に恵まれました。



ました。ありがたい限りです。この新たな縁を大切に、金剛禪の布教に尽力する所存です。(道院長・永江健将)

# 「架け橋たれ」—— 少林寺拳法創始 70 周年記念事業

去る11月3、4、5日の3日間、金剛禅総本山少林寺において、少林寺拳法創始70周年記念事業「ブルースカイ キャンパス in 多度津」が盛大に開催され、延べ7,000人が来場されました。  
本特集ではその一部を抜粋してご紹介します。

11月3日

## 【西原春夫氏特別講演】



西原 春夫氏  
「“平和のための戦争” というのはあってはならない」

東京都少林寺拳法連盟より推薦された、西原春夫同連盟会長による特別講演。演題は「日本の安全保障政策を完璧に理論づける 少林寺拳法の方法」。「相手を高め、自分を高めるときにしか力は使ってはいけない。相手の攻撃の力を逆に利用して、相手を制する少林寺拳法の方法の特徴こそが、日本の安全保障政策を考える上で非常に重要」と話された西原氏。来場者は熱心に聞き入っていました。

## 【特別練習会】

テーマ

### 「時空を超えた拳士でつなぐ架け橋」

総勢 218 人の参加者が集い、楽しく修練されました。



山崎 博通 講師  
「ダーマを感得するための行。誰もが可能性を有している」



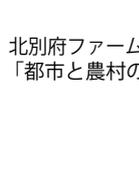
新井 庸弘 講師  
「技がかかる成立条件がある。難しく捉えてはいけない」



## パネリスト



片岡 まり子氏  
一般社団法人ディベロップメント  
シニアPCコミュニティ代表理事  
「小さなことでも、継続的に、  
地域でできることを」



北別府 学氏  
北別府ファームプロジェクト代表  
「都市と農村の交流を深めたい」



幡司 剛成氏  
有限会社照泰仏堂専務取締役  
「普段から『気にかける』。そしてSOSには素早く手を差し伸べたい」



宇野 真里奈氏  
全日本学生少林寺拳法連盟委員長  
日本体育大学4年  
「高齢者が交流する場、コミュニケーションの場をつくり、支えていきたい」



## 【記念フォーラム】

11月4日

テーマ

### 「2025年 つながりがつくる未来への架け橋」

武藤芳照氏（日本体育大学特別招聘教授）による基調講演では、「一つひとつのつながりを芯にして、底辺を広く、バランスよく積み上げて、安定した基盤の上に高さを求める必要がある」と説かれました。続くパネルディスカッションでは、4人それぞれのパネリストの立場から、2025年問題に対する取り組みについて話されました。



武藤 芳照氏  
「からだを育み、心を育み、つながりを育もう」



# ブルースカイキャンパス in 多度津

の賑わい

11月4日

## 【金剛禅式結婚式】

福島小倉寺道院の高橋正詠道院長(新郎)と千恵さん(新婦)が、同志の見守る中、金剛禅式結婚式を挙げられました。(導師は、福島桑折道院 齋野光樹道院長)



## 【チャリティライブ】



本山境内におけるチャリティライブでは、大島花子さんが透き通った声で「上を向いて歩こう」「明日があるさ」などを披露。また、岩手県出身のシンガーソングライター、久保田みやびさんも「青春応援歌」「夢への一歩」などを熱唱。場内は大感動の渦に包まれました。

11月4～5日

## 【グルメ屋台】

2日間を通して本行事を盛り上げていただいたのが、全国の教区・県連・道院等から出店されたグルメ屋台です。来場者へ、ご当地の美味、珍味はもちろん、元気もいっぱい届けていただきました。



大駐車場のグルメ屋台

## 【全国の和菓子と美味しいお茶】

多度津町内にある築90年の古民家「香露軒」では、全国各地から集まった一押しのお菓子和、千年の歴史をもつ常滑焼(愛知県)の茶器で味わう煎茶の絶妙な調和に、来場者はご満悦の様子でした。



## 【写経と巻物づくり】

金剛殿で開催された「写経と巻物づくり」。静かな佇まいのもと、体験者は一文字一文字に集中して般若心経を写経されていた姿が印象的でした。



## 謝辞

少林寺拳法創始70周年記念事業「ブルースカイキャンパス in 多度津」では、多くの法縁皆様からのご支援とご協力をいただき無事に開催出来ましたことに心より御礼申し上げます。県内外より多数の来場者を得ましたことは、主催者として大変嬉しく思います。

本事業を通して地域の方々と少林寺拳法との親交が深まり、少林寺拳法グループ法縁各位にとって今後の活性化につながることを祈っております。皆様方からの沢山の架け橋をありがとうございました。

担当役員 宗 昂馬

「架け橋たれ」の発信から始まった70周年でしたが、本事業では、全国の道院長が、拳士が、そして少林寺拳法が「ずっと架け橋であったのだ」と再認識いたしました。誰もが架け橋であった結晶として、この事業は集大成したのだと、少林寺拳法70年の歴史に畏敬の念を抱かずに居られません。

今回得られたものを次の10年への弾みとし、活かし、還元してゆくことをお約束いたします。本当にありがとうございました。

実行委員長 倉本 亘康

## 2017年10～11月度 認証

### ●道院長交代

相模大野道院	北野 英雄	生駒北道院	宮本 富博
川崎東道院	荒井 信章	埼玉蓮田道院	土屋 晴彦

### 法階昇格者

#### 准範士

■2017年9月24日付	石崎 良輔(東京浮間道院)	大西 桂一郎(宮崎橘道院)
金久保 富治夫(東京浮間道院)	山本 高稔(京都春日道院)	

### 僧階昇任者

#### 少法師

■2017年9月2日付  
田中 一彦(草加道院)

#### 中導師

■2017年8月1日付  
前司 道弘(長井ひなた村道院)

■2017年10月1日付  
福岡 健一(砥部大南道院)

### お布施

達磨祭法要		▷高砂道院 大内 信弥	10,000円
▷岐阜県教区	30,000円	▷鹿嶋 淳	3,000円
▷徳島県教区	10,000円	本山帰山記念	
▷西陣道院 牧野 清	20,000円	▷所沢竜王道院 鈴木 正輝	10,000円
▷高岡古城道院 前野 美則	10,000円	公認講習会	
▷貞光道院 庄野 雅巳	5,000円	▷北海道教区	30,000円
▷綾南道院 加藤 義秋	5,000円	▷宮城県教区	30,000円
布施		▷栃木県教区	30,000円
▷東京大塚道院 石原 吉洋	100,000円	▷神奈川教区	30,000円
▷島原城南道院 飯塚 久雄	30,000円	▷富山県教区	30,000円
▷札幌あかしや道院 阿達 美恵子	20,000円	▷愛知県教区	30,000円
▷豊田末野原道院 服部 俊美	10,000円	▷三重県教区	30,000円

### 訃報

とくしま しげる  
**徳嶋 繁** 豊橋道院道院長、170期生、大導師大範士八段、2017年10月22日逝去、満73歳

かつらけんじ  
**桂 健二** 調布深大寺道院、400期生、大導師准範士六段、2017年10月27日逝去、満66歳

少林寺拳法創始 70 周年記念事業からのお知らせ

## 70周年記念誌を刊行!

A4判/全ページフルカラー/本文48ページ

創始70年の歩みと記念事業の様子が掲載されます。お楽しみに!!

2018年  
2月  
下旬



☆☆☆ 2018年2月度 宗道臣塾ショートプログラムのお知らせ ☆☆☆

## あなたが変わる瞬間がある!

### ◆開催日

2018年2月10日(土)～12日(月・振休)、定員20人、東京別院

宗道臣塾(主催:一般社団法人SHORINJI KEMPO UNITY)は、少林寺拳法創始者・宗道臣(開祖)の薫陶を受けた宗由貴塾長、鈴木義孝講師が、直接あなたに開祖の志を伝承します。ショートプログラムは、レギュラープログラム(1泊2日×3ステージ)に興味・関心があるけれど、日程的に受講するのが困難な人に向けて用意された短期研修プログラムです。

開催初日である2月10日は、開祖の誕生日です。この日を機に、開祖の志(原点)を再確認しませんか!

●申し込み方法:マイページ>各種申込手続き>行事申込手続きより

●申し込み期限:2018年1月26日(金) ※詳細は、マイページ「お知らせ」画面をご参照ください。



編集後記▶開祖は人間のもつ靈性(=ダーマの分靈)の一つに「勇気」を挙げておられます。やるべきと思ったことや判断したことに、心を鼓舞して取り組んでみる。一步踏み出してみる。平易に言えば挑戦、チャレンジするということでしょうか。▶少林寺拳法70年のはじまりはその開祖の一步からでした。そしてその一步に心を鼓舞されて、多くが次々と指導者となりあとに続きました。少林寺拳法の歴史は、そうしたチャレンジの積み重ねとってよいでしょう。▶気持ちも新たに、と新年のはじまりによく言います。旧態に心をとらわられては挑戦もままならず。一夜明けて暦が変わるだけなのに、年明けはなぜか新鮮な気分にもなれるもの。そんな気分も味方につけて、勇気をもって71年目に挑んでいきたいものです。(さ)

表紙▶志村 力 専門学校禅林学園教員。准範士七段。  
金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶  
<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/>  
代表法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅 検索

【お詫びと訂正】  
Vol.55号「宗門の行としての少林寺拳法」の法形の名称に誤りがありました。お詫びし、訂正いたします。  
誤)逆転一 正)逆天一

あ・うん | vol. 56  
金剛禅総本山少林寺広報誌 2018 睦月・如月

2018年1月1日発行(奇数月1日発行)  
発行人：大澤 隆  
発行所：金剛禅総本山少林寺  
〒764-8511  
香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48  
☎0877-33-1010  
<http://www.shorinjikempo.or.jp>  
編集人：坂下 充  
印刷・製本：株式会社ムレコミュニケーションズ  
広報誌「あ・うん」追加発送について ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆  
現在、広報誌「あ・うん」は、道院の在籍門信徒数に応じて10~20部ずつ、一般財団法人支部は1部ずつ、毎月ご提供させていただいております。さらに追加をご希望の方は、本山宗務部にお申し出ください(追加1部につき50円・送料別途要)。  
TEL.0877-33-1010  
e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

いち ご いち え  
一期一笑



イラスト/大原由執子 福島桑折道院 田本 良文

架け橋が織りなす仕合せ

本山仁王門、43年前に初めてくぐり、今回数十年前ぶりに合掌礼をすることができました。少林寺拳法創始70周年記念事業のブルースカイキャンパスin多度津に参加するため、齋野光樹道院長はじめとする道院幹部6人で帰山したからです。「お帰りなさい」と迎えてくれた本山職員は、学生時代の一年後輩でした。門と人が温かく迎え入れてくれるこれぞ本山。福島県から7時間の疲れも消え、すでに元気をもらいました。昔、開祖が法話で「砂の様な人間にはなるな」と語られていたことを思い出しました。居眠りなぞせず、よく聞いておくべきだったと悔やまれます。

思い起こすと、私が少林寺拳法を始めたのは、大学時代の先輩から甘い言葉で誘われたのがきっかけで、ここからは想像に難くない、きびしい體育會(体育会)系部活が始まったのです。しかし今まで続けられたのは、関東学生大会での組演武優秀賞の成功体験と、4年間の苦勞をここで終わらせたくなかったこと、少林寺拳法を通じて出会った人々の繋がりが自分を覚えてくれることがあったからです。齋野道院長をはじめ諸先輩や同門拳士の方々は、自分の未熟さを気付かせてくれます。福島県の方々は武専や行事で仲間であることの楽しさを教えてくれます。何より家族の支えは大きなものです。改めて自分を取り巻く全てに感謝です。

娘は福島で三段の許可を受け、愛媛県宇和島市に嫁ぎました。遠くへ嫁に出した不安もありましたが、宇和島道院に転籍し、濱田宏行道院長のもとで四段の許可を受けたよう、安心しております。不安を解消してくれたのは、少林寺拳法を通じた横のつながりでした。孫娘も上が三級・下は見習いで頑張っているようで、福島島の爺さんとしてはうれし限りです。いつか三世代で演武をするのが楽しみです。

親子三代、先輩後輩の縦の架け橋、道院同士や仲間同士の横の架け橋、そうして70年かけて織りなされたものが少林寺拳法だと思えます。そうした仕合せが繋がっていくことを願います。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛 TEL.0877-33-1010 FAX.0877-56-6022 e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

*Kakuritsu Ken,  
Kinteki Geri Hiza Uke Nami Gaeshi*



宗門の行としての少林寺拳法 かくりつけん 鶴立拳 きんてきげりひざうけなみがえし 金的蹴膝受波返

金的蹴に対し、前脚を引き上げて片足立の膝受を行い、その足で相手の金的へ波浪脚撃を行う。膝受と言っても脚刀側部から足首を使って受けるが、真っ向から対抗するのではなく、相手の攻撃に合わせるように引き上げて受けるとよい。会得には数をかける必要があるので、防具などを有効に活用しながら無理なく修練すること。

撮影/加々見一 文/永安正樹 演武者/守者: 倉本亘康 准範士六段 攻者: 富田雅志 大拳士五段



SHORINJIKEMPO  
少林寺拳法